どうする名古屋城？

天守閣木造復元

Q&A

日本共産党名古屋市会議員団

〝尾張名古屋は城でもつ、と唄われた名古屋城。徳川家康の命によって築城され、1612年（慶長17年）に竣工した天守は、第二次世界大戦中の空襲によって焼失しましたが、再建を望む声の高まりによって、1959年に再建されました。

いま、その天守閣を解体して、今度は木造で復元するという構想が浮上しています。河村たかし市長は、木造復元に向けた予算を提出し、9月議会で可決しました。しかし、市民の盛り上がりはありません。

名古屋城をどうするのか、天守閣の解体・復元を急ぐ必要があるのか――このパンフレットは、市民のみなさんの疑問に答える形で作成しました。みなさんの議論に少しでも役立てば幸いです。

2015年12月

日本共産党名古屋市会議員団

目　次

Q１．天守閣の解体・復元を言い出したのは？ ―― 2
Q２．木造復元「調査費」が可決しましたが？ ―― 3
Q３．再建するなら木造復元しかない？ ―― 6
Q４．2020年の東京オリンピックまでに復元？ ―― 7
Q５．史実に忠実な復元は可能？ ―― 8
Q６．木造復元の事業費は４００億円？ ―― 9
Q７．経済効果１００億円ってホント？ ―― 10
Q８．名古屋城の魅力アップは？ ―― 11
Q９．日本共産党市議団はどう考える？ ―― 13

Q１　天守閣の解体・復元を言い出したのは？

マニフェストに掲げた河村市長です

1959年に鉄筋コンクリートで再建された名古屋城天守閣は、その外観は昭和実測図にもとづき、正確に再現されています。内部は、本丸御殿の障壁画や武具などを展示する博物館としての機能を果たしています。

再建から半世紀以上が経過した天守は、石垣の変形やコンクリートの劣化、耐震性の確保などの課題が生じていることから、名古屋市の『特別史跡名古屋城跡全体整備計画』では、「天守の耐震改修などを行う」という方針が示されました。耐震改修を行えば、現在の天守閣はおおむね40年の寿命があるとされています。それなのに、どうして「木造復元」という話が出てきたのでしょうか。

■本丸御殿「一旦立ち止まって再検討」から天守「木造化推進」へひょう変

河村たかし市長が初当選した2009年4月の名古屋市長選挙では、建設工事が始まっていた名古屋城本丸御殿の復元など4大プロジェクトをどうするかが、争点の一つになりました。河村市長はマニフェストで、「名古屋4大プロジェクトは、一旦立ち止まって、実施時期や規模を再検討する」と公約しました。

ところが、本丸御殿の復元については、討論会を1回開いただけで、その年の8月に建設続行を判断。そればかりか、同年9月議会では日本共産党議員の質問にたいして、「私は天守閣木造復元派」「天守閣は、都市のシンボルは別個に要る」と答弁し、天守閣の木造化を言い始めました。

河村市長の辞職にともなって行われた2011年2月の出直し市長選挙で、河村市長はマニフェストに「名古屋城天守閣木造復元」を掲げました。市長選挙後の3月議会では、東日本大震災の直後だったことから、日本共産党は代表質問で、「こんなときに天守閣を木造につくりかえるのか、そんなお金があるなら被災地に回すべき」という市民の声を届けて、「天守閣の木造再建は今やるべきではない」と迫りました。これにたいして河村市長は、「全世界におる名古屋ゆかりの人からカンパを求めてでも木造の復元。400年大事にすれば、また国宝になる」と言い放ちました。

こうして河村市長の〝独走〟によって天守閣木造復元問題が市政に持ち込まれたのです。

Q2 木造復元「調査費」が可決しましたが？

市民意見も聞かず、木造復元に舵（かじ）を切る

2015年9月議会では、天守閣の木造復元に向けた補正予算が可決しました。この予算は、契約手法として技術提案・交渉方式を採用して木造復元に向けた手続きを開始し、木造復元の設計・施工を請け負うゼネコンを選定するところまで進める予定です。「調査費」と銘打っていますが、木造復元に本格的に踏み出す予算にほかなりません。

技術提案・交渉方式とは？

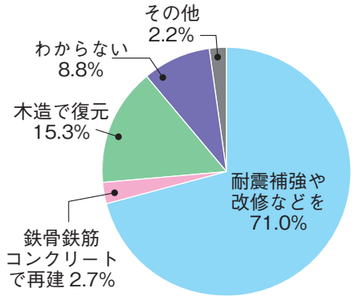
技術的な難易度が高く、発注者が最適な仕様を設定できない工事などで、ゼネコンから技術的に優れた提案を公募し、提案を審査して選んだゼネコンと価格や施工方法などを交渉して決定する契約方式。東京オリンピックの新国立競技場建設でも採用されている。

■ 耐震改修71%、木造復元15%（ネットアンケート）

河村市長は木造復元に熱中していますが、市民はどうでしょう。

名古屋市が2014年2～3月に実施したネットモニター・アンケートでは、「天守閣を存続させて、耐震補強や改修などを行う」が71%であり、「天守閣を解体して、木造で復元する」は15%しかありませんでした。市民は木造復元に冷ややかです。

名古屋城天守閣をどうするか
（名古屋市ネットモニターアンケート2014年2月）



木造復元には市議会からも疑問が噴出し、9月議会前の市議会経済水道委員会で市は、「（天守閣）整備の選択肢を示しながら、市民の意見を聞く」という方針を示さざるをえませんでした。ところが、市民の意見を聞くこともなく、木造復元に向けた予算を提案したのです。

共産党の反対討論に
自民市議「極めてまともなこと」

「（日本共産党の）西山氏の演説後、河村たかし市長が自席から『共産主義だ』とやじを飛ばすと、議案に賛成の自民の議員から『極めてまともなことを言っている』とたしなめられる場面もあった」（「中日」10月1日）

この予算に日本共産党市議団は、①市民の意見を聞かず、市民合意のない中で木造復元へと舵をきった、②2020年7月の東京オリンピックまでに竣工という無謀な方針となっている、③財源のメドがたたないままでの木造復元は、市民の暮らしに犠牲を強いる恐れがある、④耐震改修を進めるという『特別史跡名古屋城跡全体整備計画』との整合性がとれないという4つの問題点を指摘し、木造復元を急ぐべきではないとの理由で反対しました。（詳細は次頁以降をご覧ください）

この予算に日本共産党以外の会派は、市民アンケートの実施を求める附帯決議をつけて賛成しました。附帯決議では、木造復元の概算経費が莫大なことから、「厳しい財政状況の中、市民生活に大きな影響を与える」という懸念も表明しています。

名古屋城天守閣 木造再建の想定スケジュール

区分	内容	
2015年11月	技術提案の募集※	文化庁・国土交通省へ相談
2015年12月 ～2016年3月	タウンミーティング等	
2016年3月	技術提案の審査・評価※ 優秀提案の選定 （工期・工程・概算事業費等）	
2016年4月 ～2020年7月	概算事業費の財源想定について市民・議会へ報告 市民アンケート 議案の提出（設計費予算） 基本協定締結・設計業務委託契約 設計の実施 価格等の交渉※ 工事費の財源内訳について市民・議会へ報告 議案の提出（工事費予算） 議案の提出（工事契約） 工事請負の契約 工事着手 天守閣竣工	文化庁・国土交通省との協議開始 文化庁 復元検討委員会　国交省 交付金要望 ・文化庁へ現状変更許可申請　・国交省交付金交付申請 ・文化庁から現状変更許可　・国交省交付金交付決定

注1 石垣工事は継続して実施
2 ※において、学識経験者の意見聴取を実施
3 国交省交付金は、国土交通省の社会資本整備総合交付金をいう

西山あさみ議員の反対討論（2015 年 9 月 30 日市議会本会議）

日本共産党名古屋市議団を代表して、一般会計補正予算について反対の立場から討論を行います。反対する理由は、名古屋城整備検討調査と銘打って、名古屋城天守閣の木造復元に本格的に踏み出す予算が計上されているからです。

その問題点は 4 つあります。

第 1 は市民の意見を聞かず、市民合意のない中で木造復元へと舵をきったことです。

当局は 7 月 1 日の経済水道委員会で、「木造復元を目指す」という方針を撤回し、複数の「選択肢を示しながら、市民の意見を聞き、調査結果などを丁寧に説明する」という方針を示しました。ところが、市民の意見を聞くこともなく、木造復元に向けた技術提案交渉方式による契約手続きを開始するというのは、市民そっちのけと言わざるを得ません。

昨年 2 月に実施されたネットモニターアンケートでは「耐震改修」が 7 割を超えたように、木造復元についての市民合意はありません。市民アンケートを行うというのなら、補正予算を提出する前に実施すべきです。

第 2 は 2020 年 7 月のオリンピックまでに竣工という無謀な方針となっていることです。

当局は委員会で、事業者募集の条件として 2020 年 7 月までの竣工を明示しました。市の調査では、天守閣本体だけでも、解体に 3 年、復元工事に 6 年、合わせて 9 年。しかも、御殿の工事と重複しないよう「本丸御殿完成後に木造復元に着工するのが望ましい」という結果が出ています。こうした調査結果を棚上げにする工期の設定は資材や人件費の高騰をまねき、事業費が跳ね上がることはあきらかです。

第 3 は概算事業費も明らかにせず、財源のめどがたたぬままでの強行は市民の暮らしに犠牲を強いる恐れがあることです。

木造復元といっても木材や仕様により 270 億円～ 400 億円と大きな幅があります。概算事業費も示さず事業者まかせにするのはあまりにも無責任です。国からの補助金確保のメドも立っておらず、市の財政見通しも厳しいもとで、巨額の市費を投入すれば市民の暮らしに大きな犠牲を強いることになりかねません。

第 4 は、「特別史跡名古屋城跡全体整備計画」では、天守閣については耐震改修を進める方針であるにも関わらず、木造復元に方針を転換することは、この「全体整備計画」との整合性がとれないことです。

以上の点から、天守閣の木造復元には大きな問題があり、いま急ぐべきではない！と申し上げて討論を終わります。

Q3 再建するなら木造復元しかない？

整備手法の選択肢は 3 つあります

■ 木造復元、復元的整備、耐震改修

名古屋城跡は国の特別史跡として指定されていますから、名古屋市だけの判断で、現存する鉄筋コンクリートの天守閣を解体することも、その後に復元することもできません。文化庁から現状変更許可を受けなければなりません。

文化庁は、天守閣整備について以下の見解を示しています。

- 天守の再建については、整備主体である地元の自治体がどのような内容の整備を行うか考えることが第一
- その上で、天守を復元する場合は、原則として材料等は同時代のものを踏襲する必要があるが、それ以外の可能性を排除するものではない
- 名古屋城天守閣については、往事の資料が十分そろっていることを踏まえると、いわゆる復元検討委員会において木造によるできうる限り史実に忠実な復元をすべきとの意見が出される可能性が極めて高いと考えられる

※「復元検討委員会」とは、歴史的建造物の復元に関する具体的案件等について検討を行うため、文化庁に設置された専門委員会

文化庁の見解では、「（木造復元）以外の可能性を排除するものではない」とされていますので、外観を復元しつつ、内部は展示室などとして利活用する観点から意匠・構造を変更する「復元的整備」もありえます。ですから、名古屋城天守閣を整備する手法としては、①木造復元、②復元的整備、③耐震改修の 3 つがあります。

当面は、耐震補強と改修で長寿命化を図り、建て替えが必要な時期になったら、木造復元か、復元的整備かを検討するという選択肢もあります。

現在の天守閣の耐震改修

- コンクリートの耐用年数は残り 40 年以上
- 耐震改修の総工費 29 億円。工期 3 年
- エレベーター 1 基を 7 階まで延伸
- 空調等や設備更新、外壁や屋根の改修等を実施

（2012 年 2 月 19 日、市主催の市民大討論会資料）

Q4 2020年の東京オリンピックまでに復元？

無謀な方針です。期限設けずに議論を

天守閣の木造復元について河村市長は、「2020年の東京オリンピックまでに完成させたい。400年前は2年でできた」と言っています。名古屋市も、ゼネコンから技術提案を公募する条件として、「2020年7月までの竣工」を明示しました。東京オリンピックまで5年弱。間に合うのでしょうか。

■ これまでの市の調査では解体3年、復元6年

これまでの市の調査では、天守閣の解体工事に約3年、石垣の改修工事に約9年、天守閣の復元工事に約6年、合わせて約18年かかるとされてきました（右表）。名古屋市は、東京オリンピックに間に合わせるために、石垣工事は天守閣の復元後に先送りする考えですが、それでもオリンピックに間に合わせるのは至難の業です。

平成24年度名古屋城天守閣木造復元概算経費・工期算出調査による工期

区　分	工　期
解体工事	約３年
石垣工事	約９年
復元工事	約６年
全　体	約18年

名古屋城の本丸では現在、本丸御殿が工事中。完成は2018年度の予定です。名古屋市の調査では、「工事ヤード、入場者動線の観点からみた場合、本丸御殿完成前に木造復元工事に着工すると、本丸御殿の素屋根があるため、小天守の仮設工事を行うことができない」などの理由から、「本丸御殿完成後に木造復元工事に着工するのが望ましい」（『名古屋城整備検討調査報告書』2015年3月）と結論づけています。

いままでの市の調査結果も無視して、東京オリンピックに間に合わせようというのは、無謀な方針です。「急ぐ必要はない。50年、100年後を見据え、よりよいものになるよう取り組んでほしい」――名古屋城の観光ボランティアの方からも声があがっています（「中日」11月19日、堀部浩旦さん）。

本丸御殿の復元
「一筋縄ではいかなかった」

「特別史跡の現状変更には厳しい制約があり、（本丸）御殿の復元に当たっては文化庁の委員会で細かく審議された。委員会の開催は年2回ほどに限られており、それに合わせるには、スケジュールに余裕がないと厳しい」「名古屋城の天守閣は国内で最大の規模。もし復元となれば、設計には少なくとも、御殿と同程度（2年）か、それ以上の期間が必要ではないか」
（「中日」10月31日、文化財建造物保存技術協会・春日井道彦さん）

Q5 史実に忠実な復元は可能？

エレベーター設置など課題が山積

河村市長は、「史実に忠実に復元すれば、将来は国宝になる」と言っています。河村市長のいう〝本物〟復元は可能でしょうか。

現在の名古屋城天守閣には後付でエレベーターが設置されている

名古屋工業大学大学院教授の麓和善さんは、「正確な復元とは本物が残る天守台の石垣を修理した上で、石垣内部の穴蔵から上をすべて木造で忠実につくること」（「中日」10月9日）と語っています。ところが、名古屋市の調査では、基礎構造については「木造による史実に完全に忠実な復元計画は困難」であるとして、「1階より下部は鉄筋コンクリート構造とする」（『名古屋城整備検討調査報告書』）という考えが示されています。図面は残っていても、「正確な復元」は簡単ではないのです。

元文化庁主任調査官の田中哲雄さんは、「天守閣は急な階段が多い。障害者への対応をどこまで考えるのか、かなり議論になるだろう。煙が出た場合の排出もどうするか。出入り口が一カ所でいいのか、安全性の確保も課題だ」（「中日」11月6日）と語っています。 日本共産党市議団は、エレベーター設置の有無について、市議会で河村市長と議論しています（別項）。「エレベーターはない方がええ」という河村市長ですが、市の『名古屋城整備検討調査報告書』では、小型エレベーターの設置についても検討されています。

「本物復元」「将来は国宝」などと河村市長は安易に言いますが、史実に忠実な復元には、解決しなければならない課題が山積しているのです。

河村市長「背負子（しょいこ）でおんぶすれば」

2013年の6月議会では、天守閣のバリアフリーをめぐってこんなやりとりがありました。

◆（田口一登君）本物に近い木造復元には、容易に解決することができないさまざまな課題があります。……急な階段や段差が多く、バリアフリーとならず、お年寄りや体が不自由な方の観覧には支障があるのではないか。

◆（河村市長）背中にしょうやつがあるでしょう。どういうのやったね。（「背負子」と呼ぶ者あり）背負子ですわ。ああいうのを持って、1人ずつ、それこそ名古屋市立大学の皆さんにボランティアで上がってもらったらどうですか、階段を。どんだけあったかい、ぬくとい市民になるんですか。

Q6 木造復元の事業費は 400 億円？

税金は、木造復元よりも福祉・暮らしに

名古屋城天守閣の木造復元には巨額の費用がかかります。概算経費は 270 億円～ 400 億円（表）。河村市長の意向通りに東京オリンピックまでの 5 年弱で完成させようとすれば、工期は 3 年程度となり、毎年 90 億円～ 130 億円余もつぎ込まなければなりません。そんなお金があるのでしょうか。

名古屋城天守閣木造復元概算経費

区　分	金額
ほとんど節のない国産材を使用する場合	400 億円
節の有無・多少を問わず国産材を使用する場合	320 億円
柱に節のある国産材、柱以外に外国産材を使用する場合	270 億円

名古屋市の財政は、大企業・金持ち優遇の市民税減税によって 110 億円余も税収が減っています。市の財政収支の見通しでは、2019 年度には 176 億円もの歳入不足が生じるとされています。こんなときに天守閣に莫大なお金をつぎ込んだら、福祉・暮らしの予算にしわ寄せが及ぶことは避けられません。

河村市長は、「市民に市債の購入を呼びかけて、財源を賄う」と言いますが、木造復元への市民の盛り上がりはなく、市民の暮らしが厳しい中で、どれだけの市民が市債を購入するというのでしょう。市債は借金ですから、ツケを先送りするだけ。「税金は、天守閣木造復元よりも福祉・暮らしに回せ」――これが多くの市民の声です。

■ 国の補助金は当てにできない

「東京オリンピックまで」と期限を切ると、国からの補助金もたいして当てにできません。木造復元のために国から支出してもらえそうな補助金・交付金は、文化庁の「歴史活き活き！史跡等総合活用整備事業補助金」と、国土交通省の「社会資本整備総合交付金」があります。

しかし、文化庁の同補助金は、全国の自治体が約 65 億円を 400 件ほどの事業で分け合っており、最大でも 1 件 2 億円程度。文化庁の文化財調査官は日本共産党市議団に対し、「自治体からのすべての要望に応えるのは難しい」と言っています（2015 年 11 月 12 日）。

国土交通省の同交付金については、市議会経済水道委員会で自民党議員が、「国土交通省が 2020 年までは、優先配分はオリンピックやラグビーのワールドカップだと言っていることを承知しているか」と質問し、市当局は「国土交通省の担当官と話していると、そういう声を聞いている」と答弁。市当局も、国の支出金はあまり当てにできないことを認めています。木造復元のための財源確保のメドはたっていません。

Q7 経済効果 100 億円ってホント？

約 100 億円の経済波及効果の根拠なし

「入場者数の増加による経済波及効果が、木造復元は約 100 億円、耐震改修はゼロ」――名古屋市の試算です（右下表）。木造復元の場合は、入場者数が現在の年間 165 万人から 165 万人増えて 330 万人に倍増するというのが、この試算の前提です。

全国の城郭の中で入場者数が 300 万人を突破したところはありません。熊本城でも本丸御殿の復元が竣工した 2008 年度の入場者数は 222 万人であり、その後は 160 万人前後に減少しています。大天守の修理が終わって今一番人気の姫路城でも、今年度の入場者数は 200 万人程度と予想されています。入場者 330 万人というのは、余りに過大な見込みです。

入場者数が約 165 万人増加するという想定は、本丸御殿に関するアンケート調査の結果を援用したものです。「約 100 億円の経済波及効果」は、天守閣木造復元について独自の調査もしていないずさんな試算です。

入場者数「倍増」の根拠は？

天守閣木造復元によって名古屋城の入場者数が倍増する根拠について市当局は、「本丸御殿に関するアンケート調査を分析したところ、本丸御殿が完成すると入場者数がほぼ倍増するという結果になった。天守閣を木造復元した場合にも、本丸御殿復元と同等の集客効果があると考えた」と市議会で答弁しました。

本丸御殿着工前は 110 万人だった入場者数が、完成後には 220 万人になると想定したのです。しかし、本丸御殿第 1 期の完成後の入場者数は 165 万人ですから、「倍増」の想定ははずれました。仮に本丸御殿全体の完成後（2018 年度）に 220 万人になったとしたら、そこから 165 万人増えなければ、天守閣復元による約 100 億円の経済波及効果は生じないことになります。入場者数 385 万人 ?? ありえません。

どうする 名古屋城

「経済効果100億円は過大」

天守復元　柴田氏、市の試算批判

名古屋城天守閣の木造復元をめぐり、市が「入場者数が倍増して百億円の経済波及効果がある」と試算した数字を、柴田民雄氏（共産）が「あまりにも過大で根拠が薄弱」と批判した。

市は九月定例会の委員会審議で、木造復元によって現在の年間入場者百六十五万人が二倍の三百三十万人となることで百億円の経済波及効果があると報告した。根拠を「本丸御殿に関する二〇〇七年度の調査で、完成後に入場者数が倍増するとの結果が出た」と説明。天守閣の木造復元も「それと同等の効果がある」とした。

だが、御殿着工前の二〇六年度の入場者数は早十万人で、市の試算通りなら御殿が完成する一八年度に入場者数は二百二十万人。

柴田氏は「百六十五万人増での経済波及効果を百億円と試算するなら、入場者数は二百二十万人に百六十五万人を足して三百八十五万人としなければいけない」と矛盾を追及。答弁した宮村憲明・市民経済局長は「〇七年度の調査を基に出した数字。ご理解いただきたい」と述べるにとどめた。

名古屋城総合事務所によると、名古屋城の入場者が最も多かったのは、世界デザイン博覧会の会場の一つになった一九八九年度で、三百八十九万人余だった。

11 月 26 日付「中日」

天守閣木造再建の概算経費及び経済波及効果
（市長による調査の報告 2015 年 9 月 25 日 経済水道委員会）

区分	概算経費	建設工事による経済波及効果	入場者数の増加による経済波及効果
木造復元	約 270 ～ 400 億円	約 530 ～ 780 億円	約 100 億円（約 165 万人）（注）
復元的整備	約 108 億円	約 210 億円	約 20 億円（約 31 万人）
耐震改修	約 29 億円	約 60 億円	—

※経済波及効果の算出方法
・建設工事による経済波及効果は、総務省が平成 23 年度産業連関表のデータから作成した経済波及効果の簡易計算ツールを用いて算出。
・入場者数の増加による経済波及効果は、「名古屋市観光客・宿泊客動向調査（平成 25 年度）」及び簡易計算ツールを用いて単年度ベースで算出。

注　木造復元による入場者数の増加は、名古屋城本丸御殿に関する調査を参考として算出。

Q8 名古屋城の魅力アップは？

あるものの解体よりも、無いものの復元を！

河村市長は天守閣の木造復元にこだわっていますが、名古屋城の歴史的遺産としての価値は、天守や御殿などの建造物だけではありません。石垣や堀、庭園、さらに地下に埋蔵されている遺構など、すべての文化財によってつくられています。こうした歴史的遺産としての価値と、文化的シンボル、文化観光資源、公園緑地など名古屋城が持つ多様な役割をふまえて、今後の保存・活用をすすめるために策定されたのが、『特別史跡名古屋城跡全体整備計画』です。

この『全体整備計画』の中には、天守閣の木造復元という言葉は１か所も出てきません。天守閣については耐震改修整備という方針が示されています。『全体整備計画』の見直しも行わないで、木造復元に向かうというのでは、『全体整備計画』との整合性がとれません。

■「城の歴史的景観を再生」

『全体整備計画』では、名古屋城整備の基本方針として、「戦災等で滅失した建造物、二之丸庭園、その他城の歴史的特色を示す遺構の復元整備を行い、城の歴史的景観を再生させていく」とされています。

名古屋城の整備スケジュール

		H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35～
本丸御殿の復元	玄関・表書院等	公開中									
	対面所等	復元工事		公開							
	上洛殿等	復元工事				公開					
二之丸庭園の保存整備（名勝指定区域から順次）		発掘調査・測量・整備									
展示収蔵施設の整備		設計・整備・収蔵物移転						公開予定			
カヤの保全		保全									
石垣の修復（本丸搦手馬出から順次）		調査・解体・積み直し									
本丸御殿障壁画の修理		修理									

（名古屋城公式 HP より）

本丸については現在、本丸御殿が復元中（2018 年度に全体公開予定）であり、さらに本丸を囲む多聞（たもん）や東北隅櫓（すみやぐら）の復元を行い、「本丸の輪郭を明確にし、ランドマークとしての城の再生を狙う」とされています。

また、二之丸庭園の保存整備や石垣の修復工事なども進められています（前頁表）。

「今あるものを壊してつくり直すより、まだないものを復元する選択肢があっていい」――識者からも声が上がっています（麓和善名古屋工業大学大学院教授「中日」10 月 9 日）。

多聞（たもん）とは

多聞とは、城の石垣の上にある長屋風の櫓をいいます。写真は彦根城の佐和口多聞櫓（同城 HP より）。

名古屋城本丸には三方に隅櫓（すみやぐら）は現存していますが、櫓をつないで本丸を取り囲んでいた多聞は滅失したままです。

名古屋城は天守と御殿だけじゃない

名古屋城内をじっくり見て回りました。

観光客が真っ先に向かうのは、天守閣と本丸御殿ですが、他にも見所がいっぱいあることに気づきました。たとえば、写真右上の本丸東二之門。現存する３つの門の一つで、重要文化財です。もともとは東鉄門（ひがしくろがねもん）と呼ばれ、二の丸東枡形（愛知県体育館に入る石垣で囲まれたところ）にありました。本丸東二之門跡の石垣には有名な「清正石」も残っています。

写真右下は、南蛮練塀（なんばんねりべい）。二ノ丸庭園の北側にある堀沿いの土塀です。円形の鉄砲狭間が見られます。写真下は、本丸の北西に位置する御深井丸（おふけまる）にある「乃木倉庫」。明治初期に建てられた旧陸軍の弾薬庫です。戦争末期に本丸御殿の障壁画が保管されていた場所の一つだそうです。御深井丸には重要文化財の西北隅櫓も現存しています。

二の丸庭園や御深井丸では、ほとんど観光客に会いませんでしたが、豊かな緑の中で歴史の息吹を感じることができました。

（「田口かずとのブログ」2013 年 6 月 13 日より）

Q9 日本共産党市議団はどう考える？

耐震改修し、木造復元は将来の課題に

名古屋城とその天守閣の整備をどのようにすすめるのか。大事なことは、市民の声を聞いてすすめることです。市民の意見も聞かずに、木造復元へと踏み出した河村市長のやり方には、市民から批判の声が上がっています。木造復元を急ぐべきではありません。

日本共産党名古屋市議団は、以下の方針で取り組みます。

○名古屋城天守閣については、耐震補強を含む長寿命化をすすめ、ぼう大な費用を要する木造復元については将来の市民にその判断をゆだねる。

○二之丸庭園の保存整備を優先するなど、『名古屋城跡全体整備計画』に沿って総合的かつ計画的に進め、城跡全体としての魅力向上につとめる。

（「2016 度市予算編成にあたっての要望」より）

コンクリート改修えらんだ小田原城

名古屋城の 1 年遅れで天守閣が再建された小田原城も、耐震性が課題とされる一方で、「木造で再建を」という声があがっています。

小田原市は、2011 年 8 月から専門家や市民代表による「天守閣耐震改修等検討委員会」を設置し、耐震改修とともに木造復元の可能性についても検討してきました。その結果、「喫緊の課題である耐震改修を速やかに行う」「木造復元の可能性はないわけではないので、今後さらに資料の収集と研究を続けていく」という結論に達しました。

今年 7 月から、既存の壁の横にコンクリート製のブロックを積み上げ、壁を厚くする耐震改修工事に着手。この工事だけでも、20 ～ 30 年は持ちこたえられるそうです。

木造復元に向けての名古屋市のやり方は、小田原市のように専門家の英知を集めて検討を重ねるという手立てを講じていません。コンサルタント会社やゼネコン任せの余りにぞんざいなやり方です。

memo

住民が主人公の市政に
力を合わせてがんばります

北区
岡田ゆき子
TEL 915-2705

西区
青木ともこ
TEL 532-7965

中区
西山あさみ
TEL 263-0500

名東区
さいとう愛子
TEL 704-1928

守山区
くれまつ順子
TEL 793-8894

昭和区
柴田民雄
TEL 858-3255

天白区
田口一登
TEL 808-8384

緑区
さはしあこ
TEL 892-5190

港区
山口清明
TEL 651-1002

南区
高橋ゆうすけ
TEL 692-4312

中村区
藤井ひろき
TEL 411-4161

中川区
江上博之
TEL 363-1450

ご意見・ご相談はお気軽にどうぞ
日本共産党名古屋市会議員団
〒460-8508 名古屋市中区三の丸三丁目1番1号 名古屋市役所内
TEL 052 (972) 2071 Fax 052 (972) 4190 mail.dan@n-jcp.jp
ホームページをご覧下さい http://www.n-jcp.jp/

どうする名古屋城天守閣木造復元
Q & A

2015年12月発行